

令和 7 年度あま市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定に関する実態調査
調査結果報告書に基づく

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 課題分析レポート

令和 8 年 7 月 16 日 あま市

【調査概要】	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護支援専門員調査
対象	65 歳以上の市民 (要介護認定者を除く)	要介護認定を受けてお り、在宅で生活している 市民	市内及び近隣の居宅介護 支援事業所に従事する介 護支援専門員
配布数	3, 000 件	1, 000 件	100 件
抽出方法	住民基本台帳等による層化無作為抽出		市内及び近隣の 居宅介護支援事業
回収数	1, 904 件	524 件	88 件
有効回収数	1, 904 件	524 件	88 件
回収率	63. 5%	52. 4%	88. 0%

【引用ボックスの色の凡例】

ニーズ調査（青）

在宅介護（橙）

介護支援専門員（緑）

カテゴリ1 身体機能・フレイル予防に関する課題

【調査結果】

- 【ニーズ調査】転倒経験 31.9%（後期高齢者 35.2%）。転倒不安 50.7%と約半数が不安を抱える。
- 【ニーズ調査】フレイルを「知らない」48.1%（男性 56.6%）。
- 【ニーズ調査】介護予防のための講習会等に「関心はあるが参加したことはない」または「関心はない」人は合計 85.1%。また、その理由で最も多い回答は「どこで、どのような講習やトレーニングがあるのか知らないから」（46.7%）。
- 【ニーズ調査】口腔機能低下リスク 24.2%（後期高齢者 28.0%）。口腔機能低下リスクと認知症リスクとの重複が 36.9%。
- 【ニーズ調査】運動器機能低下リスク 14.3%（七宝地区 17.3%）。

【自由記述から見える課題】

① 介護予防参加への意欲と「場・情報へのアクセス」の壁

- 【ニーズ調査】 「それぞれの体力に応じた運動を後押しできるような仕組み作り」
- 【ニーズ調査】 「体を動かしたくて、バランスボール等の教室を申し込んでも抽選で落ちてがっかりしたり、糖尿病の指導の講座に申し込みしても満員で受けられなかったりしました。日数や定員を増やしてほしい。」
- 【ニーズ調査】 「週に1～2回程度気軽に外出（ウォーキングや運動）できる場の提供があれば嬉しい。」
- 【ニーズ調査】 「人と出合える公園、運動しやすい公園があれば散歩もしやすいです。室内よりは外で体を動かしたい。」
- 【ニーズ調査】 「身体の健康講座や動きを入れて楽しい時間が欲しい。」

② 道路・歩道環境の悪さが外出・転倒リスクを高める

- 【ニーズ調査】 「高齢者に関わらず道の整備ができていない為、外出を控えざるをえない。車椅子にしてもベビーカーにしても外出が安全に出来る様な環境にならないと高齢者などととても外へは出られないと思います。」
- 【ニーズ調査】 「高齢者が歩く（カート等押して）歩道は傾斜があり路面がデコボコであぶない」
- 【ニーズ調査】 「高齢者に限らずあま市の歩道はかなり歩きづらいです。でこぼこも多く、歩道の狭いところは車を運転しながら見てもヒヤッとすることがあります。もちろん高齢の方が手押し車などで歩いているだけでも歩きにくそうです。」
- 【ニーズ調査】 「義母と同居していますが、ここは歩道がせまいと言っています。確かにシニアカーにしても通る幅がなく、家のまわりもスーパーもだいぶん行かないとなし、お年寄りにとってはすみづらい町だと感じています。」

③ 運動機会の不足と免許返納後の閉じこもりリスク

- 【ニーズ調査】 「高齢者の運転免許返納を進めているが、免許がなかったら家から出られなくなるので、一層認知症など不健康になって要介護になりやすくなる。」
- 【ニーズ調査】 「これから先、自転車に乗れなくなると家から出る事もなくなると思う（バスなどの移動手段があれば良いけど）。」
- 【ニーズ調査】 「毎日 40 分以上の足の運動（ウォーキング）を行えば、健康寿命は必ず延伸する。要は自分の 2 本の足で不自由なく生活出来れば良いのでは……。」

- ▶ 課題のまとめ：身体を動かす意欲はあるが、情報・定員不足・場所の遠さ・道路環境の悪さ・免許返納後の移動手段が複合的に外出・運動参加の壁となっている。介護予防の推進には健康講座の拡充と並行した環境整備が求められる。

カテゴリ2 認知症対策・相談支援に関する課題

【調査結果】

- 【ニーズ調査】 認知機能低下リスク 39.9%。
- 【在宅介護実態調査】 調査対象者が現在抱えている傷病のうち「認知症」は 43.3%（前回比 +14.4pt 増）。
- 【ニーズ調査】 認知症に関する相談窓口を「知らない」 64.3%。市の認知症施策を「知らない」 58.1%（前期高齢者 68.9%）。
- 【ニーズ調査】 認知症の症状や家族に認知症の症状がある人のうち、認知症専門医のいる医療機関未受診者が 39.9%。また、受診者のうち、医療機関受診まで 1 年以上かかった人は 11.9%。
- 【ニーズ調査】 ACP を「知らない」が 83.2%。また、終末期を迎える場所の希望については「自宅」が 44.1%と前回比 9.7pt 減少。

【自由記述から見える課題】

① 家族介護者の孤立・精神的負担の状況

【ニーズ調査】 「夫がアルツハイマーで4年目です。本人が嫌だと参加しない。だんだん記憶がなくなり始めるが、家の事など手伝ってくれる。夫が免許証を返納して4年、妻である私が車で夫の足がわりです。怒鳴られて運転するのも大変になってきました。私も度々の転倒で腰痛がひどくて。わずかな年金暮らしでとても不安です。」

【在宅介護】 「認知症が進むにつれ近隣への迷惑（回覧板を別の所へ勝手に持っていく等）、苦情も増えている。介護者として終日管理しろと言われる方もいらっしゃるが、生活面も含め支えている事から仕事は辞められません。認知症の行動への理解が広がる取り組みをして欲しい。現在1人で高齢者介護を受けもっている家族は精神的負担（金銭面も）が大きすぎる。」

【在宅介護】 「レビー小体型の認知症だと感じますが本人の脳がその状態に入った時の対応にどう対処して良いか苦しみます。段々と歩行困難になりそうなのでその時の対応を教えて欲しいと思っています。」

【在宅介護】 「私は一人っ子で近くに住んで居ますが、介護はとても大変です。先に父が認知症になり、次に母がアルツハイマーになっております。今は二人が老々介護で生活していますが、毎日のように Tel などでは私は困っています。もっとたくさんの介護サービスが受けられるといいです。認知症は頭の中の病気なので、大変困っています。」

【在宅介護】 「認知症の症状に一番苦労している。本人が悪いわけではないのにこちらがどうしても腹がたち、声、行動が自分でも虐待かな？と思う時がある。」

② 若年性認知症等への対応不足

【ニーズ調査】 「少子高齢化の進む現在、認知症の増加による事件事故が多発傾向にあります。高齢者における各種のサポート及び高齢者施設の充実を希望します。」

【在宅介護】 「これからの時代、若年性認知症の方はどんどん増えていくと思います。若い方でも抵抗なく通えるデイサービスなどがあればうれしい。介護などのサービスが他の市に比べて少ない。」

③ACP・看取り支援への意識

【ニーズ調査】 「看取りに特化した施設を作ってほしいです。」

【ニーズ調査】 「行政にお願いしたいのは、残り僅かの時間を豊かに生きられるように「死の解決」をできる精神的なケア（例えば、仏教の話を聞くことができる講座などを主催して頂くとか）をしっかりとすれば良いと思っています。」

【ニーズ調査】 「死ぬ時は自宅希望だから、在宅医療を充実してほしい。」

④ 認知症支援に感謝する声

【ニーズ調査】 「家族が認知症になったことで高齢福祉課及び地域包括支援センター及び社会福祉協議会及び民生委員さんにたくさんの相談、苦しみ、悲しみを話し、その存在をありがたく思いながら、そのつど「私はひとり」ではないと心強くなり今日までできました。ふれあいカフェがいつまでも続くことを願います。」

- ▶ 課題のまとめ：認知症介護者の孤立・精神的負担についての状況が自由記述からうかがえる。症状への対処法の学習支援・介護者へのレスパイト・ピアサポート、そして若年性認知症対応が求められる。ふれあいカフェ等の取組継続への期待も大きい。

カテゴリ3 社会参加・孤立予防に関する課題

【調査結果】

- 【ニーズ調査】趣味「思いつかない」29.5%。生きがい「思いつかない」41.5%。閉じこもり傾向有り13.9%（後期高齢者18.4%）。
- 【ニーズ調査】この1か月間にあった友人・知人「0人」が17.2%（男性22.8%）。家族や友人・知人以外の相談相手について「そのような人はいない」が45.6%。
- 【ニーズ調査】介護予防のための通いの場参加は6.4%（不参加は61.2%）。地域づくり活動にへの世話役としての参加意向で「参加したくない」は65.5%。

【自由記述から見える課題】

① 孤独・孤立の実態

- 【ニーズ調査】「家族のだれが一人になっても安心して暮らせる町作りをしてほしい。今は残念ながら、兄弟や子供、近所の人達、友人達、親戚がいても誰も頼りにできない高齢者は多いと思います。そうすると、行政、自治体しか頼れません。」
- 【ニーズ調査】「84歳の一人暮らしともなると、いろいろ不安な事もあり、近所の人とは同じような高齢者、若い人は留守、いつでも電話をかけて、相談出来る窓口がほしい。いろんな教室とか交流会があるが人間関係が難しそうで、入会出来ない。」
- 【ニーズ調査】「身寄りがなく、一人暮らしには体が動かなくなった時の事が不安。」
- 【ニーズ調査】「今は健康で自分のこともすべて出来るが、1人でいるといつどんな事が起こるかわからない不安はある。」
- 【ニーズ調査】「数年前に弟の孤独死を経験しました。今も心の傷になっています。1人暮らしの方の支援や見守りを少しでも良くなる様な市政を望みます。」
- 【ニーズ調査】「一人暮らしの方の訪問を頻繁に行い、孤独死を少なくする。」

② 仲間・つながりへのニーズ

- 【ニーズ調査】「仲間づくりの機会を増やしてほしい。健康マージャン教室開催・ボーリングやグランドゴルフなど健康維持に役立つ催し。」
- 【ニーズ調査】「同年代の方たちと、本音で話し合い、共に助け合える生活をしていきたいと思っています。介護についても身近な人たちと体験談がかわせるといいですね。」
- 【ニーズ調査】「超高齢化社会ということで、高齢者同士が地域の中で助け合いが出来る仕組みがあれば良いなあと思う。遠くの子供達に負担をかけず、さらに高齢者自身の生きがいや信頼関係も築けるのではないかな。」
- 【在宅介護】「同じ立場で介護している人同士の話ができると心が平常でいられると思います。自分もいつかは介護される側になるのはわかっているけれど介護する方大変さをわかってもらいたいです。」

③ 既存のサービス・教室への参加の壁

【ニーズ調査】 「高齢者のシルバーカレッジや生涯学習の話に初心者が入りづらい。前からいる人たちのマウントに仲間に入れないということも聞いたことがあるから考えて欲しい！」

【ニーズ調査】 「木田には高齢者が楽しめる場所がありません。気軽に立ち寄れる（カフェの様な）自販機等が置いてある所が欲しい。小学生の学童の様な所があればうれしいです。」

【ニーズ調査】 「地域ごとに高齢者が集える場所の提供。市の運営による自由に出入りが出来、飲食、会合、読書など大きなホール（市の運営又は民間でも（憩の家）などの一角にスペースをもうけ、個々の人々がお茶を飲みながら集えるスペース（コミュニティベース）を作る。」

【ケアマネ】 「地域のカフェへ行ける高齢者への啓発活動（オレンジリング、ワンコインボランティア等）。近所の方同士の声かけがしやすい環境づくり。」

- ▶ 課題のまとめ：孤独・孤立が深刻化しているケースが自由記述から見られる。また、地域活動等に対して「既存のつながりに入りたくても入れない」という参加への壁を感じている声も挙がっている。地区ごとの気軽な居場所づくりと、既存サービスへの参加の敷居を下げる工夫が求められる。

カテゴリ4 移動・交通手段に関する課題

【調査結果】

- 【ニーズ調査】あま市の高齢者施策への要望1位は「高齢者が移動しやすい交通手段の利便性の向上」（全体 31.4%、女性 37.8%）。
- 【ニーズ調査】外出控えの理由で「交通手段がない」が 23.7%。また、外出時の交通手段は「自動車（自分で運転）」が 61.1%で最も多い。
- 【在宅介護実態調査】在宅介護に必要なサービス1位「移送サービス」（25.0%）。
- 【介護支援専門員調査】ケアマネの 84.1%がインフォーマルサービスとして「買い物や通院時の送迎サービス」を期待。

【自由記述から見える課題】

① 巡回バスに対する意見・要望

- 【ニーズ調査】「今は車に乗っていますが、手放したら移動手段が思い浮かばない。」
- 【ニーズ調査】「市巡回バスは、家の近くに乘れる所がないと利用できないので、デマンド（タクシー）があるといいと思います。」
- 【ニーズ調査】「今の巡回バス停が遠い。」
- 【ニーズ調査】「巡回バスを利用しやすく本数を増やしてほしい。」
- 【ニーズ調査】「現在の巡回バスでは、バス停まで 15 分かかり、そもそも乗れません。デマンド交通やタクシー補助をお願いします。」
- 【ニーズ調査】「現在のあま市の巡回バスを、利用者の立場で考えて時刻表などを作成してほしい。車の運転をやめたくても、今のままではバスの利用はむずかしい。老人が増えるばかりなのに、台数も時刻表も、再考してほしい。」
- 【ニーズ調査】「巡回バスはとても不便で利用することができません。（バス停が遠い、本数が少ない）」
- 【ニーズ調査】「乙之子地区にバス停がないので主人が免許返納したら、買物、市役所、その他、出かける事が出来なくなるので不便になる。もう少し小回りのきく車で地域を回ってほしいです。」
- 【ケアマネ】「巡回バスのルートが変わって欲しい、不便。タクシーしか移動手段がなく、料金も高いため外出しづらいなどご利用者様からよく聞きます。」

② タクシー補助・デマンド交通への要望

- 【ニーズ調査】「病院へ行く時、帰る時、タクシーの割引があると助かる。」
- 【ニーズ調査】「どこか出かけるにも足がないです。あま市で老人へタクシーチケットの配布をお願いしたいです。」
- 【ニーズ調査】「通院時のタクシー補助券を配布してほしい。名古屋市は実施済み。帰りは体調不良で運転できないです。」
- 【ニーズ調査】「一部の市では、タクシー料金の半額チケットを出している所もあると聞いたんですけれど、あま市はそういうことはしないんですか。」
- 【ニーズ調査】「巡回バスですが、バス停まで遠く利用するのに不便と考えている人が多いです。タクシー券の配布を希望します。」
- 【ニーズ調査】「後期高齢者に対し月2往復位のタクシー券が有ると助かります。市民の意見として書き伝えます。」

③ 移動困難が在宅介護・社会参加に影響

【ニーズ調査】 「高齢者の生きがいを考えることも大切だと思いますが、その場所へ自分で通える人ばかりではないのです。それを助ける若い家族への手当が大切だと考えます。高齢者のことを考える前に、それを支える若い人のことを考えるべきだと思います。」

【在宅介護】 「現在は介護者が車の運転が出来ますがいつまでとはいきません。移動（病院、買い物、交通機関までの移動）のための手段に何かよい案はないでしょうか。タクシーも近くばかりではなかなか難しいことをよく聞きます。」

【在宅介護】 「市内を巡回しているバスを増やす、ルートを増やす又はタクシーチケットを配布してほしい。車がないと生活できない地域なので…。高齢者の運転の事故を減らす為にも。」

- ▶ 課題のまとめ：「巡回バスが使えない」は本調査の自由記述で最も多い声となっている。バス停が遠い・本数が少ない・ルートが不便という意見が多数ある。タクシー補助への強い要望は近隣市とも比較されており、重要な施策課題である。

カテゴリ5 介護サービス・在宅介護に関する課題

【調査結果】

- 【介護支援専門員調査】介護保険サービスの中で「訪問介護」の供給不足をケアマネの62.5%が指摘（前回64.2%と同水準）。
- 【在宅介護実態調査】施設等へ「入所・入居を検討している」・「すでに入所・入居申し込みをしている」の合計34.7%（前回比+9.7pt）。重度認定者（要介護4、5）では「すでに入所・入居申し込みをしている」が45.9%。
- 【在宅介護実態調査】介護者が現在の生活を継続していくにあたって不安に感じる介護内容1位は「認知症状への対応」（23.3%）。
- 【在宅介護実態調査】介護を理由に「主な介護者が仕事を辞めた」割合は8.1%。
- 【在宅介護実態調査】主な介護者のうち、フルタイムまたはパートタイムで働いている介護者は合計44.8%。その中で就労継続（働きながらの介護）が困難と感じている介護者は合計12.3%。

【自由記述から見える課題】

① 訪問介護・ヘルパー不足

【在宅介護】 「社協デイサービスの廃止、近隣ショートステイ施設の閉鎖でサービス組替を余儀なくされ遺憾です。民間施設も玉石入り混じり介護職員の離職やスポットワーカーの増加で不安要素が増えています。福祉や介護といった命を預かる公共性の高い分野こそ将来を見通した公的な施策を期待しています。」

【在宅介護】 「ヘルパーさんにもっと来てほしい。」

【ケアマネ】 「訪問介護事業の閉鎖が続く必要サービス提供が行えない状態となっています。逆にナースングや訪問看護は増えているということは介護、看護では報酬面だけではなく待遇にも差があるのだと感じます。在宅介護においてヘルパーさんの協力は必須です。何とか人員不足を解決できればと思います。」

【ケアマネ】 「支援の方のサービス利用を受けて下さる事業所が少ない。支援の方が入浴を希望されてもサービスに繋がられない事が多く困っている。」

② 老老介護・介護者の疲弊・共倒れへの不安

【ニーズ調査】 「家の人介護疲れで共倒れにならないよう望みます。」

【在宅介護】 「老老介護に対する制度作りの早期対応。」

【在宅介護】 「主人90才少し認知が進みつつ私89才老老介護これからが心配です。これからお世話になる事が多くなると思いますがよろしくお願い致します。」

【在宅介護】 「今は何とかやっていますが、自分（介護者）が健康をくずしたら、共倒れになってしまう。」

【在宅介護】 「介護が楽になることはなく年々重さを増していきます。その時のニーズに合わせたサービスを受けられれば良い。同居の為、介護、世話、受診 etc こなしていますが、遠方で冠婚葬祭があった時本人を連れて行く事も置いて行く事も出来ず困った。ショートステイは常に使わなければいけない、困った時だけはダメと言われショック。何の為のサービス？デイサービスに利用を断れないか不安があり強く出れない。苦情言えない。介護単価がオーバーする月1~2回程度合わせて仕事を休まなくてはならない。本人の受診、療養 etc で自分の休みを取り、自分の為の休みを取れない。」

③ 認定・サービス利用の仕組みへの不満

【ニーズ調査】 「母親の認知の認定を受けたくてケアマネさんに来てもらいましたが、対象外とのことでした。要支援で結構ですので、認定していただきたいのですが。基準が厳しすぎませんか。」

【在宅介護】 「介護認定評価の基準がわかりにくい、あま市は厳しいと聞きます。名古屋市のようなまるゆう制度が広く適応されると良いと思います。」

【在宅介護】 「要介護度が5から3に下がって良かったと思ったのが大まちがい！デイサービス入浴等回数が減ってしまい点数によって受けたい事も受けられない。こんなアンケートで何の為になるのか。介護される方、する方の本当の悩み等わからないと思います。」

【在宅介護】 「介護サービスの情報が少なく、自分から探したり、聞いたりしないといけない。困っていることは沢山あるが、どうしていいかわからないので最低限の介護サービスだけ利用している。要介護認定は、本人もですが、家族の介護状況や仕事の状況も考慮して欲しい。」

【在宅介護】 「認知調査は1週間以内の事での調査と聞いているが体調の良い時悪い時の差が大きい。調査時の聞きとり時に体調の悪い時のお話もした方がよかったのか、今後どうしたら良いのか分かりません。」

④ 仕事と介護の両立困難

【在宅介護】 「デイサービスのお迎え時間・帰宅の時間がもう少し柔軟にしてもらえると時間休や半休、早退をしなくて済む。」

【在宅介護】 「働きながら介護しています。役所の営業時間に申請するのに働いているため、時間外にも行けません。マイナンバーカードを利用して役所に行かなくても申請や情報提供ができないでしょうか？」

【在宅介護】 「自営業の為、時間日程が不規則で休みがとりづらく介護者の負担が多い。」

▶ 課題のまとめ：自由記述の中にはサービス提供事業所の閉鎖・撤退による供給不足を指摘する声もあるように、老老介護の実態は想像以上に深刻で「共倒れ」への不安が複数寄せられている。要介護認定の基準・プロセスへの不満と情報不足、平日対応のみの制度への不満も多く、情報提供のあり方・窓口改革とセットの対応が求められる。

カテゴリ6 経済的困窮・生活困難に関する課題

【調査結果】

- 【ニーズ調査】現在の暮らしの状況が「苦しい」30.2%。
- 【在宅介護実態調査】介護保険サービスを利用していない人は17.4%で、利用していない理由のうち「利用料を支払うのが難しい」は7.7%。（最も多いのは「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」29.7%）
- 【在宅介護実態調査】特に力を入れてほしい介護施策2位は「低所得者の負担軽減に配慮した所得段階の見直しなどによる保険料の設定」（22.9%）。
- 【介護支援専門員調査】ケアプラン作成時に困ることが「ある」が93.2%で、作成時の困りごと1位は「経済的に困窮している」（78.0%）。

【自由記述から見える課題】

① 年金・保険料負担への声

- 【ニーズ調査】「金がかかる。」
 - 【ニーズ調査】「介護保険料が高い。」
 - 【ニーズ調査】「介護の保険、とりすぎだと思う。」
 - 【ニーズ調査】「年金から天引きされる額も多いし、税金も高すぎます。今後の生活が不安です。」
 - 【ニーズ調査】「年金生活で福祉介護を受けることができるのか不安。」
 - 【ニーズ調査】「保険料などの支払いで精いっぱいです。お金のかかる運動などは（ジム等）行きたくても行けません。」
- 【在宅介護】「年金が少なく介護保険料の負担が大きい。」
 - 【在宅介護】「年々利用料金が値上がりする。仕方がないが、自分の生活も守り、父の入所利用料金を支払い続けるのはきびしい。入所利用に対しても補助があると助かる。」

② 低所得者への施設・サービスアクセス困難

- 【ニーズ調査】「国民年金受給者でも入ることができる公的サ高住。」
 - 【ニーズ調査】「年齢が来ると子供達に迷惑かけないようにと考え、施設を前もって探すのですが、金額の範囲があります。施設で働く方々の負担とか労働を考えると、それに見合った金額をしてあげて欲しいと思います。」
 - 【ニーズ調査】「高齢者向きの住宅等があまりに軽費で入れる所が、あまり広報にのせてほしいと思います。希望です。年金で入居出来るグループホームが希望です。」
- 【ケアマネ】「お金がなく介護サービスを受けられない方の支援を行政にも関わっていただけたらありがたく思います。」
 - 【ケアマネ】「経済的に困窮している方が多く、サービスが制限される。介護保険以外のサービスや税金関係（医療費控除など）何でも知っていると思われ聞いてくる家族が多い。」

③ 介護離職・貯蓄取り崩しによる生活困窮の状況

【在宅介護】 「介護の為仕事をやめ貯金を取りくずして生活をして苦しい。」

【在宅介護】 「金銭的に余裕がないので仕事をやめてしまったら本末転倒。年金しかないのでやりくりしてサービスや施設を検討したいが。子どもへの手当のニュースは耳にするが、介護はいつまでどれだけの負担がかかるか未知なのですごく不安。」

④ 食の確保・生活困窮への支援要望

【ニーズ調査】 「日々食べ物の確保が経済的に苦しい人が多勢いらっしゃると思います。炊き出しの様な気軽に食事が入手できるような仕組みがあれば労力位は少し位お手伝いしてもいいと思います。（シニア向き食堂みたいな）」

【ニーズ調査】 「年取って働けなくなるのに年金だけだとお金が足りない。病気も出来ない。死ぬしかないと思ってしまう。」

▶ 課題のまとめ：「保険料・利用料が高い」という声が自由記述で寄せられている。年金のみでは施設・サービスを利用できないという意見も多く、経済的不安が大きいことがうかがえる。

カテゴリ 7 8050 問題・高齢者虐待に関する課題

【調査結果】

- 【介護支援専門員調査】 ケアマネの 48.9%が 8050 問題に関与しているが、8050 問題に対して関係機関への「連絡・相談した」割合は 72.1%にとどまる。
- 【介護支援専門員調査】 虐待事例関与 53.4%（前回比+7.7pt）。関与した虐待事例のうち、身体的虐待 53.2%・ネグレクト 46.8%・経済的虐待 40.4%。

【自由記述から見える課題】

① 複合困難世帯（8050・障害・介護重複）のケース

【在宅介護】 「大きな問題として、本人と同居している子（59 才）が介助が必要な知的障害者であり、保護者として保護できていない状態を本人の性格や認知等で理解、把握できていない所です。高齢者福祉の問題だけではなく障害者福祉を同時、並行して考えなければならないのに、それができないようで難しいと思っています。」

【在宅介護】 「認知症の母の貯蓄を買物依存症・ギャンブル依存症の父が引き出して使い減らしています。1 ヶ月の引き出し額に制限する等、金融機関の協力があればと感じます。」

② 介護ストレスによる虐待リスクの懸念

【ニーズ調査】 「以前虐待というニュースをよく耳にしてとても怖いと思いました。職員さんもお大変でしょうがこういう事がないようになれば安心して利用できるでしょう。」

【在宅介護】 「認知症の症状に一番苦労している。本人が悪いわけではないのにこちらがどうしても腹がたち、声、行動が自分でも虐待かな？と思う時がある。」

【在宅介護】 「地域包括センターに相談に行った際、「認知症には刺激が必要だから、外出させた方がいい。今は社会の理解もある」と言われましたが、はたして本当にそうでしょうか？（例）花見を楽しみたい他の家族の隣で「帰りたい、つまらない」という言葉が出たらその家族はどう思うのでしょうか？高齢者・認知症の人にとって良い行いだとしても万人が受け入れてくれることでしょうか？そのような発言をしてしまう本人を連れて出かける介護者の気持ちも汲み取って相談や支援をして頂きたいと思います。」

③ 多機関連携の必要性（ケアマネ視点）

【ケアマネ】 「高齢福祉課、地域包括、ケアマネ、各事業所、それぞれができる事を精一杯できるとよいです。線引きするとキリがない。結局ケアマネが業務外の事を行う事になりますネ…」

【ケアマネ】 「これからますます高齢化が進み認知症の方も増えてきます。地域の中で安心安全に生活できるネットワーク作りを期待しています。」

- ▶ 課題のまとめ：約半数のケアマネが 8050・虐待等の困難事例に関与している。自由記述では「介護ストレスで自分が虐待しているかもしれない」という介護者の苦悩を示す声もあり、虐待の早期発見とともに、介護者への支援（ケア）にも取り組んでいくことが必要である。また、ケアマネの業務外対応への懸念も示されており、多機関連携の仕組みが求められる。

カテゴリ 8 地域包括ケアシステム・情報提供に関する課題

【調査結果】

- 【ニーズ調査】地域包括支援センターを「知らない」が 40.5%（男性 51.1%）。「事業内容まで知っている」は全体の 10.8%のみ。
- 【在宅介護実態調査】地域包括支援センターを「知らない」が 22.3%。「事業内容まで知っている」は 24.8%とニーズ調査よりも認知度が高い。
- 【ニーズ調査】認知症に関する相談窓口を知らない人は 64.3%、
- 【ニーズ調査】介護予防のための講習会等に「関心はあるが参加したことはない」または「関心はない」人は合計 85.1%。また、その理由で最も多い回答は「どこで、どのような講習やトレーニングがあるのか知らないから」（46.7%）。
- 【介護支援専門員調査】地域包括ケアシステムを推進するために必要なことの 1 位は「医療と介護の連携」（65.9%）。

【自由記述から見える課題】

① 相談したい時に「どこに相談すればいいかわからない」という声

【ニーズ調査】 「どの状況の時に、何処へ相談に行くのがベストかわからない。」

【ニーズ調査】 「福祉・介護はどのような制度があり、受けるためにはどのような条件や制約があるかわからない（知らない）ので何かできることはないでしょうか。」

【ニーズ調査】 「相談窓口、介護施設等内容の充実度がよく見える情報提供を望みます。」

【ニーズ調査】 「役所よりの手続きとか案内もあまり理解ができないままそのままにしてある事もある。もっと簡単な文章で送られてくればと思うこともある。なんでも相談できる窓口があれば良いと思う。」

【在宅介護】 「情報が少ない（自分から取りに行く必要がある）。」

【在宅介護】 「困った時に相談できる窓口をおしえてほしい。」

② 医療・介護連携と ICT 化への期待

【在宅介護】 「市役所での手続きと地域包括支援センターでの手続きとあっちこっちでの不便があったのが大変だったので、どちらかですべてできるかどちらでもできるようにネットワークをつなげてほしい。」

【在宅介護】 「マイナンバーカードがあるのならそれを利用して役所に行かなくても申請や情報提供ができないでしょうか？」

【ケアマネ】 「他職種連携を取りやすくなる様に介護事業者も社協や包括も ICT 化を進めて欲しい。（医療は進んでいると思う）事業所側や働く人の意識がかわる様な取り組みをもう少しやって欲しい。」

③ 窓口のアクセス改善・土日対応の希望

【ニーズ調査】 「市役所が遠くて相談にも行けない。地区ごとに窓口をつくってほしい。」

【ニーズ調査】 「市役所の時間短縮は、市民にとってメリットは何もありません。反対です。土曜日、日曜日市役所をあけて下さい。子供たちにつれていってもらえません。」

【在宅介護】 「市役所、福祉関係が平日しかやっていないので休日でも対応できるよう改善してほしい。」

【在宅介護】 「地域包括支援センターに福祉課の出先があると各種申請がし易いと思う。」

④ 情報発信手段の多様化への要望

- 【ニーズ調査】 「広報ばかりではなく、携帯のアプリ（あま市のアプリ）で 70 才以上の人にこんなことがありますとか、お知らせするといいと思います。」
- 【ニーズ調査】 「後期高齢者前の 70 才から 74 才の人に「あま市の高齢者施策」を紹介する冊子を配布していただけると助かります。」
- 【ニーズ調査】 「近い将来に利用出来るサービスや高齢者向け住宅の利用する為の施設等を広報等から情報を知りたいです。」
- 【ニーズ調査】 「相談のしやすい場所であってほしいし、わかりやすい各部署のガイドブック（高齢者福祉全般）があれば、どんな活動をしているか知りたいと思います。」

⑤ 地域包括支援センターへの期待と課題

- 【ニーズ調査】 「不自由な事が起きたら地域包括支援センターに相談したいと思っています。その際には細部に至り相談に乗って頂きたいと思います。」
- 【在宅介護】 「もっと地域包括支援センターがしっかり動いてほしい。相談にいつでも的外れであてにならない。しっかりしたケアマネジャーさんがついてくれたので助かっています。」
- 【ケアマネ】 「まだまだ介護保険の利用方法を知らなく困っている方が多い様子です。地域で把握して、支援体制が大切だと思います。強化できるようよろしくお願いします。」

- ▶ 課題のまとめ：ニーズ調査においては、地域包括支援センターを含めた相談窓口を「知らない」回答が約半数ある。また、各調査の自由記述では「相談したいがどこに行けばいいかわからない」「窓口が遠い・平日のみ」という声もある。ICT活用・ワンストップ化・アプリ活用など情報発信の多様化が求められる。地域包括支援センターへの期待は高いが、懸念点も散見され、相談対応の質の向上が必要である。

追加分析 経済状況別にみた課題の深掘り

追加分析1 経済状況別にみた就労の傾向

① 現在の就労状態（問 48）の経済状況別比較

【表】問 48「現在のあなたの就労状態はどれですか」経済状況別回答割合（％）

経済状況	職に就いたことがない	引退した	常勤（フルタイム）	非常勤（パート・アルバイト等）	自営業	求職中	その他	無回答
全体 (n=1,904)	8.8%	48.5%	6.4%	15.0%	8.6%	0.6%	4.7%	10.6%
苦しい (n=575)	8.3%	49.0%	5.2%	16.2%	8.3%	1.4%	6.1%	8.9%
ふつう (n=1,159)	9.0%	48.8%	6.7%	14.7%	8.7%	0.3%	4.1%	10.8%
ゆとりがある (n=134)	8.2%	46.3%	10.4%	14.2%	8.2%	－	4.5%	10.4%

- 経済状況が「苦しい」層の仕事を「引退した」割合は 49.0%と全体（48.5%）とほぼ同水準だが、「求職中」が 1.4%と全体（0.6%）よりも高くなっている。
- 「苦しい」層の「非常勤（パート・アルバイト等）で働いている」割合は 16.2%（全体 15.0%）でやや高く、就労している人でも非正規の割合が高い傾向がある。
- 「ゆとりがある」層の「常勤（フルタイム）で働いている」割合は 10.4%（全体 6.4%）と最も高く、安定就労と経済的ゆとりの相関がうかがえる。

② 引退した人の今後の就労意向（問 48-2）の経済状況別比較

【表】問 48-2「今後、就労の機会があったらどうしたいですか」経済状況別回答割合（引退者のみ、％）

経済状況	常勤で働きたい	非常勤で働きたい	働かない	働きたいが環境・状態にない	その他	無回答
全体 (n=923)	0.2%	7.5%	71.1%	14.7%	3.0%	3.5%
苦しい (n=282)	0.4%	9.9%	57.4%	24.8%	3.5%	3.9%
ふつう (n=566)	0.2%	6.7%	76.3%	11.0%	2.7%	3.2%
ゆとりがある (n=62)	0.0%	1.6%	87.1%	4.8%	3.2%	3.2%

- 「苦しい」層では引退者のうち「働かない」が 57.4%と全体（71.1%）を 13.7 ポイント下回り、引退後も働き続けたい・働かざるを得ない状況がうかがえる。
- 「苦しい」層の「働きたいが働ける環境・状態にない」が 24.8%と全体（14.7%）よりも 10.1 ポイント高い。「ゆとりがある」層の 4.8%と比べると 20 ポイントの大きな差があり、就労意欲はあっても健康・環境面で断念せざるを得ない実態が考えられる。
- 「非常勤（パート・アルバイト等）で働きたい」は「苦しい」層で 9.9%（ふつう 6.7%、ゆとりがある 1.6%）と高く、経済的困窮が再就労ニーズを高めていると考えられる。

③ 自由記述から見える経済状況と就労をめぐる実態

【二一ズ調査】 「保険料（国保）などの支払いで精いっぱいです。お金のかかる運動などは（ジム等）行きたくても行けません。」

【在宅介護】 「介護の為仕事をやめ貯金を取りくずして生活をして苦しい。」

【在宅介護】 「金銭的に余裕がないので仕事をやめてしまったら本末転倒。年金しかないのでやりくりしてサービスや施設を見当したいが。子どもへの手当のニュースは耳にするが、介護はいつまでどれだけの負担がかかるか未知なのですごく不安。」

- ▶ 課題のまとめ：経済的に「苦しい」層では、引退後も再就労を希望する人が多い一方、「働きたいが環境・状態にない」という就労断念が目立つ。介護離職・貯蓄取り崩しによる生活困窮の連鎖も自由記述からうかがえ、就労継続支援・介護と仕事の両立支援の強化が求められる。

追加分析２ 経済状況別にみた移動の課題

① 外出を控えているか（問 16）の経済状況別比較

【表】問 16「外出を控えていますか」経済状況別回答割合（％）

経済状況	はい	いいえ	無回答
全体 (n=1,904)	14.2%	80.0%	5.8%
苦しい (n=575)	19.7%	75.3%	5.0%
ふつう (n=1,159)	11.7%	82.4%	5.9%
ゆとりがある (n=134)	6.7%	88.8%	4.5%

- 「苦しい」層の外出を控えている（「はい」）割合は 19.7%と全体（14.2%）より 5.5 ポイント高い。「ゆとりがある」層の 6.7%と比べると 13 ポイントの差がある。
- 経済状況と外出抑制には相関がみられ、「苦しい」→「ふつう」→「ゆとりがある」の順に外出を控えている（「はい」）割合が低下する（19.7% → 11.7% → 6.7%）。

② 外出を控えている理由（問 16-1）の経済状況別比較

【表】問 16-1「外出を控えている理由は、次のどれですか」経済状況別回答割合（％）

※ 外出を控えている人（全体 270 人、苦しい 113 人、ふつう 136 人、ゆとりがある 9 人）を母数とした割合

経済状況	病気	障がい	足腰などの痛み	トイレの心配	耳の障がい	目の障がい	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
全体 (n=270)	15.2%	2.2%	51.1%	19.3%	8.9%	6.3%	18.9%	8.9%	23.7%	7.8%	4.4%
苦しい (n=113)	22.1%	4.4%	44.2%	22.1%	8.8%	8.0%	23.9%	17.7%	20.4%	8.0%	2.7%
ふつう (n=136)	11.8%	-	58.8%	17.6%	8.8%	5.1%	15.4%	2.2%	25.7%	8.1%	5.1%
ゆとりがある (n=9)	-	-	22.2%	22.2%	11.1%	11.1%	22.2%	-	22.2%	11.1%	-

- 「経済的に出られない」が「苦しい」層で 17.7%（ふつう 2.2%）と 15.5 ポイントの差があり、経済的理由による外出抑制が「苦しい」層に集中していることがわかる。
- 「病気」による外出抑制も「苦しい」層で 22.1%（ふつう 11.8%）と高く、健康状態の悪化と経済的困窮の重複が外出を一層難しくしている可能性がある。

③ 外出する際の移動手段（問 17）の経済状況別比較

【表】問 17「外出する際の移動手段は何ですか」経済状況別回答割合（％）

経済状況	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で 運転)	自動車 (人に乗 せてもら う)	電車	路線バス
全体 (n=1,904)	52.6%	36.5%	2.4%	61.1%	27.9%	22.5%	7.8%
苦しい (n=575)	49.9%	36.0%	2.4%	56.9%	27.5%	19.7%	7.1%
ふつう (n=1,159)	53.8%	36.7%	2.5%	62.5%	28.7%	23.1%	8.0%
ゆとりがある (n=134)	59.7%	37.3%	2.2%	71.6%	21.6%	32.1%	9.7%
経済状況	病院や施設 のバス	車いす	電動車い す（カー ト）	歩行器・ シルバー カー	タクシー	その他	無回答
全体 (n=1,904)	1.2%	0.3%	0.2%	2.2%	6.6%	0.8%	2.0%
苦しい (n=575)	1.6%	0.7%	0.3%	2.6%	6.3%	1.0%	2.1%
ふつう (n=1,159)	1.2%	0.2%	0.1%	2.2%	6.5%	0.9%	1.9%
ゆとりがある (n=134)	－	－	0.7%	0.7%	10.4%	－	0.7%

- 「苦しい」層の自動車（自分で運転）利用は 56.9%と全体（61.1%）より 4.2 ポイント低い。一方「ゆとりがある」層は 71.6%と最も高くなっている。
- 「苦しい」層の電車利用は 19.7%（ゆとりがある 32.1%）と 12.4 ポイントの差。公共交通を活用できていない、または利用機会が少ない状況が考えられる。
- 自動車を運転する「苦しい」層が免許返納後に移動手段を失うリスクは他の層より高く、タクシー補助・デマンド交通等の代替手段の整備は経済的支援の観点からも必要である。

④ 自由記述から見える経済状況と移動困難の実態

- 【ニーズ調査】 「どこかでかけるにも足がないです。あま市で老人へタクシーチケットの配布をお願いしたいです。」
- 【ニーズ調査】 「通院時のタクシー補助券を配布してほしい。名古屋市は実施済み。帰りは体調不良で運転できないです。」
- 【ニーズ調査】 「一部の市では、タクシー料金の半額チケットを出している所もあると聞いたんですけど、あま市はそういうことはしないんですか。」

▶ 課題のまとめ：経済的に「苦しい」層では外出抑制が 19.7%（「ゆとりがある」層と 13 ポイントの差）に達し、また、「経済的に出られない」という外出抑制理由が「ふつう」層と 15.5 ポイントの差がある。「苦しい」層は自動車への依存度が比較的低いものの、免許返納後の移動の代替手段が乏しい状況があることから、移動困難が孤立・健康悪化を招く可能性が考えられる。タクシー補助・デマンド交通等は、移動支援であると同時に経済的困窮者への生活支援として位置づける必要がある。

追加分析3 地域活動・介護予防への「関心はあるが参加したことはない」層を軸とした情報伝達の課題

① 地域づくり活動への参加者としての参加意向（問 46）の経済状況別比較

【表】問 46「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか」経済状況別回答割合（％）

経済状況	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している
全体 (n=1,904)	4.6%	42.2%	43.9%	4.5%
苦しい (n=575)	3.0%	37.2%	50.8%	4.5%
ふつう (n=1,159)	4.8%	43.9%	41.4%	4.6%
ゆとりがある (n=134)	8.2%	54.5%	32.1%	4.5%

- 全体では「是非参加したい」（4.6％）と「参加してもよい」（42.2％）の合計 46.8％が参加に前向きであるにもかかわらず、現在「既に参加している」はわずか 4.5％にとどまる。
- 「苦しい」層での「参加してもよい」は 37.2％（ゆとりがある 54.5％）と 17.3 ポイントの差があり、参加意向も経済状況に左右される傾向が見える。
- 「苦しい」層の「参加したくない」は 50.8％（ゆとりがある 32.1％）と高く、参加障壁が経済的困窮と結びついている可能性がある。

② 介護予防教室等への関心（問 69）の経済状況別比較

【表】問 69「介護予防（できるだけ介護が必要な状態にならないようにする）のための教室等に関心がありますか」経済状況別回答割合（％）

経済状況	関心があり参加したことがある	関心はあるが参加したことはない	関心はない	無回答
全体 (n=1,904)	4.3%	53.7%	31.4%	10.7%
苦しい (n=575)	2.4%	50.6%	35.3%	11.7%
ふつう (n=1,159)	4.7%	54.8%	30.3%	10.2%
ゆとりがある (n=134)	9.0%	59.7%	26.9%	4.5%

- 全体の 53.7％が「関心はあるが参加したことはない」と回答しており、関心を行動に転換できていない層への働きかけが求められる。
- 「関心があり参加したことがある」は「苦しい」層で 2.4％（ゆとりがある 9.0％）と 6.6 ポイントの差があり、関心があっても実際に参加できているのは経済的に余裕のある層に偏っている。
- 「関心はない」も「苦しい」層で 35.3％（ゆとりがある 26.9％）と高く、経済的困窮が介護予防への関心そのものを低下させている可能性も考えられる。

③ 参加しない・できない理由（問 69-1）の経済状況別比較

【表】問 69-1「それはなぜですか」経済状況別回答割合（％）

※ 問 69 で「関心はあるが参加したことはない」「関心はない」と回答した人（全体 1,620 人、苦しい 494 人、ふつう 986 人、ゆとりがある 116 人）が対象

不参加の理由	どこで、どのような講習やトレーニングがあるのか知らないから	参加の方法がよくわからないから	一緒に参加する友人や仲間がいないから	家事や介護など、時間的余裕がないから	経済的に余裕がないから	場所が遠くて、交通手段がないから	健康・体力に自信がないから	参加したいものがないから	その他	無回答
全体 (n=1,620)	46.7%	29.3%	17.7%	16.4%	5.2%	8.9%	9.1%	15.1%	8.1%	8.8%
苦しい (n=494)	46.0%	32.0%	21.5%	15.6%	14.4%	10.1%	13.8%	14.0%	7.9%	7.9%
ふつう (n=986)	47.3%	28.4%	15.9%	16.6%	1.4%	8.5%	7.8%	15.6%	7.9%	9.2%
ゆとりがある (n=116)	47.4%	25.9%	15.5%	16.4%	0.0%	6.9%	1.7%	18.1%	11.2%	6.9%

- 全経済状況で共通の第 1 位は「どこで、どのような講習やトレーニングがあるのか知らないから」（全体 46.7％）で、経済状況を問わず情報不足が最大の参加障壁となっている。
- 「経済的に余裕がないから」は「苦しい」層で 14.4％（ふつう 1.4％、ゆとりがある 0.0％）と最も高く、経済的理由が介護予防参加の障壁の一つであると考えられる。
- 「一緒に参加する友人や仲間がいないから」も「苦しい」層で 21.5％（ふつう 15.9％、ゆとりがある 15.5％）と高く、社会的孤立と経済的困窮が重なる層への複合的アプローチが求められる。
- 「健康・体力に自信がないから」も「苦しい」層で 13.8％（ゆとりがある 1.7％）と高く、健康状態の悪化と経済的困窮の重複による参加断念が考えられる。

④ 自由記述から見える情報伝達と参加障壁の実態

- 【ニーズ調査】 「体を動かしたくて、バランスボール等の教室を申し込んでも抽選で落ちてがっかりしたり、糖尿病の指導の講座に申し込みしても満員で受けられなかったりしました。日数や定員を増やしてほしいと思いました。」
- 【ニーズ調査】 「広報ばかりではなく、携帯のアプリ（あま市のアプリ）で 70 才以上の人にこんなことがありますとか、お知らせするといいと思います。」
- 【ニーズ調査】 「後期高齢者前の 70 才から 74 才の人に「あま市の高齢者施策」を紹介する冊子を配布していただけると助かります。」
- 【ニーズ調査】 「保険料（国保）などの支払いで精いっぱいです。お金のかかる運動などは（ジム等）行きたくても行けません。」
- 【ニーズ調査】 「84 歳の一人暮らしともなると、いろいろ不安な事もあり、近所の人と同じような高齢者、若い人は留守、いつでも電話をかけて、相談出来る窓口がほしい。いろんな教室とか交流会があるが人間関係が難しそうで、入会出来ない。」
- 【ケアマネ】 「まだまだ介護保険の利用方法を知らなく困っている方が多い様子です。地域で把握して、支援体制が大切だと思います。強化できるようよろしくお願いします。」

- ▶ 課題のまとめ：介護予防教室等に「関心はあるが参加したことはない」と回答した割合は全体の 53.7%に達する。その理由について、特に経済的に「苦しい」層では「経済的に余裕がないから」（14.4%）・「健康・体力に自信がないから」（13.8%）・「仲間がいないから」（21.5%）等、複合的な要因が参加を阻んでいることが考えられる。また、最大の不参加理由は経済状況を問わず「どこで、どのような講習やトレーニングがあるのか知らないから」（全体 46.7%）であり、プッシュ型の情報発信（アプリ・冊子・SNS等）が求められる。同時に、参加費無料・近隣開催・グループ形成支援等、経済的困窮層でも参加できる環境整備とセットで取り組む必要がある。